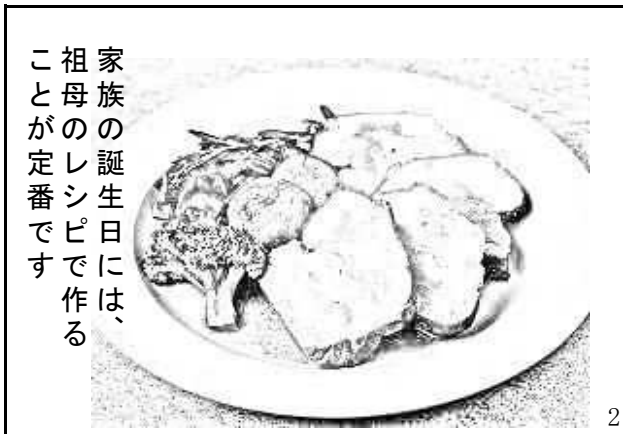
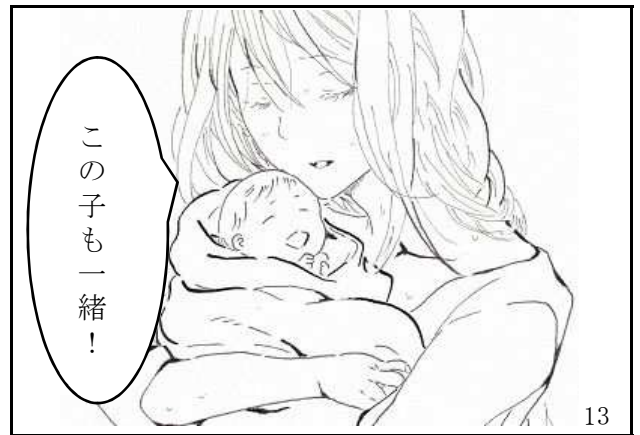


覚悟と勇気の味



覚悟と勇気の味



覚悟と勇気の味

編集後記

この新聞投稿、堪えました。仲が良かったはずの国同士が、何かのはずみで仲たがいで、取り返しのつかない記事になることって散見されます。国同士だけでなく、人同士も同じです。ステキな投稿記事に震えました。きっと色々な思いを感じたはずで、幸せな思いを持って骨をうずめたのだったら良いなと思います。

資料

ひととき;覚悟と勇気の味, 朝日新聞, 20240313

家族の誕生日には必ず、セージの詰め物をしたローストポークを作る。イギリス人だった、夫の祖母から伝えられてきたレシピで、我が家の誕生日の定番メニューになっている。

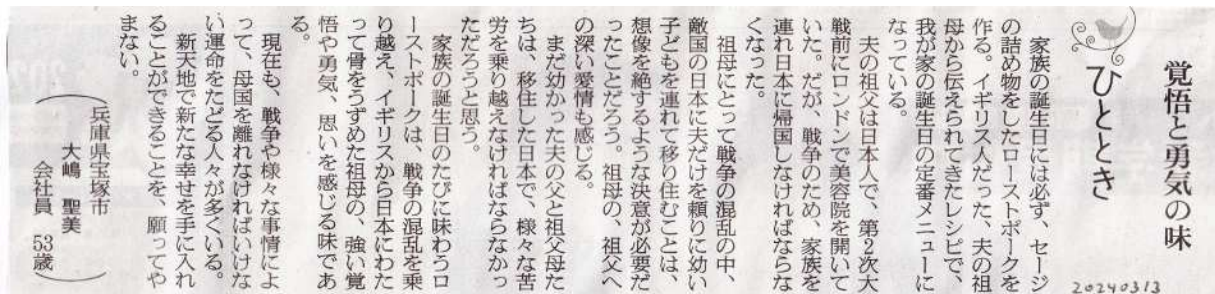
夫の祖父は日本人で、第2次大戦前にロンドンで美容院を開いていた。だが、戦争のため、家族を連れ日本に帰国しなければならなくなった。

祖母にとって戦争の混乱の中、敵国の日本に夫だけを頼りに幼い子どもを連れて移り住むことは、想像を絶するような決意が必要だったことだろう。祖母の、祖父への深い愛情も感じる。

まだ幼かった夫の父と祖父母たちは、移住した日本で、様々な苦勞を乗り越えなければならなかったと思う。

家族の誕生日のたびに味わうローストポークは、戦争の混乱を乗り越え、イギリスから日本にわたって骨をうずめた祖母の、強い覚悟や勇気、思いを感じる味である。

現在も、戦争や様々な事情によって、母国を離れなければいけな運命をたどる人々が多くいる。新天地で新たな幸せを手に入れることができることを、願ってやまない。



河合真美江;夫がない見知らぬ時の中で, 朝日新聞, 20240317

覚悟と勇気の味

